

# ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2025年9月分)

2025年9月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

## 目次(以下は主なトピックを抜粋)

### 1. 国内情勢

#### (1) 国家レベル

**●BH閣僚評議会における改革アジェンダ案の採択(30日)**

#### (2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

**●BH連邦による障がい者の職業支援及び雇用のための基金(2日)**

イ スルプスカ共和国(RS)

**●ミニッヂ新「RS政府」の発足(2日)**

**●ドディック前RS大統領のロシア訪問(9日～10日)**

**●BH憲法裁判所によるRS国民議会の結論に対する一時差し止め(10日)**

**●スロベニア政府によるドディック前RS大統領への入国禁止措置(11日)**

**●RS警察予備隊創設に関するRS警察法改正のRS副大統領による署名(19日)**

**●RS大統領選の早期実施への参加政党の発表(29日)**

### 2. 外政

#### (1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

**●コス欧州委員(拡大担当)のBH訪問(22日～24日)**

**●コムシッチBH大統領評議会議長による国連総会における一般討論演説(25日)**

#### (2) 二国間関係

**●コナコビッチBH外務大臣とギンケル当地米国臨時代理大使との会談(18日)**

#### (3) 日・BH関係

**●令和7年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「キセリヤク市診療所救急車整備計画」、「コニツツ市診療所X線撮影装置整備計画」贈与契約署名式(29日)**

**●相木大使のアブディッチ・サラエボ市長との会談(30日)**

### 3. 経済

#### (1) 経済指標(出典:BH統計局)

#### (2) 経済政策・公共事業

**●BH運送業者による抗議活動(2日)**

#### (3) 民間セクター

**●サラエボ-パリ直行便の開通(16日)**

(注:この月報は、当地紙報道などの公開情報をとりまとめたものです。)

## 1. 国内情勢

### (1)国家レベル

#### ●BH閣僚評議会における改革アジェンダ案の採択(30日)

30日、BH閣僚評議会は、電話会合において、EUの西バルカン成長計画に必要な改革アジェンダを採択した。以前から同アジェンダの採択を拒み続けてきた、コシャラツ BH副首相兼通商・経済関係大臣及びアミジッチ BH財務大臣らSNSD所属閣僚も採択に賛成票を投じた。なお、すでに7月上旬の期限超過により、西バルカン成長計画でBHに割り当てられていた金額の10%(1億800万ユーロ)が減額されており、さらなる10%の割当金減額が表明されていた9月末の期限を迎える直前の採択となった。

### (2)エンティティ、特別区

#### ア ポスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

#### ●BH連邦による障がい者の職業支援及び雇用のための基金(2日)

2日、BH連邦は、障がい者の職業支援と雇用のための合計 1670 万 KM 規模の資金の公募開始を発表した。これらの資金は、企業側が障がい者を雇用するための経済的インセンティブを確保し、新たな職業機会を創出しつつ、既存の仕事を維持するための職業支援を行い、障がい者に安全な仕事、起業、労働市場へのより簡単な参入の機会を提供するために導入された。

#### ●ニクシッチBH連邦首相とブチッチ・セルビア大統領の会談(8日)

8日、ニクシッチBH連邦首相は、アレクサンダル・ヴチッチ・セルビア共和国大統領との会談を終え、セルビアによる火薬の対BH輸出禁止が解除されたことを公表した。上記の輸入禁止措置が課されて以降、コニツ市内の

イグマン社はセルビアから輸入された火薬を失い、大きな不利益を被ることとなったため、チェコやトルコの企業を含む火薬の品質を検討し、代替の解決策を模索してきたが、結果としてセルビア大統領との直接の会談で、対BH火薬輸出禁止は解除された。

#### イ スルプスカ共和国(RS)

#### ●ミニッチ新「RS政府」の発足(2日)

2日、RS国民議会の特別会合が開催され、ミニッチ氏(独立社会主義者同盟(SNSD、RS与党))が新「RS首相」として選出され、新「RS政府」が発足した(注: BH裁判所の判決により、RS大統領の職務が終了したドディックが指名した新「RS首相」及びその政府の法的正当性は依然として不明)。同議会は、ミニッチ「RS首相」候補による所信表明演説及び審議の後、連立与党の賛成多数によりミニッチ新「RS首相」を選出し、新「RS政権」の発足を承認した。4名が新しく大臣ポストに就き、カラム前内務大臣とブディミル前科学・技術開発・高等教育大臣は役職を交代した。それ以外の大蔵大臣は、ビシュコビッチ前RS首相の政府から変更されなかった。

#### ●ドディック前RS大統領とシーヤルト・ハンガリー外務大臣の会談(4日)

4日、ドディック前RS大統領は、ブダペストを訪問し、シーヤルト・ハンガリー外相と会談した。共同記者会見の中で、「シ」外相は、依然としてドディック氏をRS大統領として扱い、新「RS政府」の発足への支持を表明し、ハンガリーは選挙によって民主的に選ばれた人々を尊重し、民主的に選ばれた指導者を支援すると述べ、西バルカン地域において、外国勢力の影響による不安定化が進んでいるとの懸念を示した。「ド」前大統領は、ハンガリーに感謝の意を示したのち、BH裁判所での自らに

に対する有罪判決は、5名のイスラム教徒の判事によるもの（ママ）であり、インター・ポールに逮捕状を請求したことも政治的迫害の一環であるとした。これに対し、BH外務省は、昨日の「シ」外相による公式声明と、RS大統領の職務が終了したミロラド・ドディック氏の公式接受について強い抗議を表明した。

#### ●ボレノビッチBH下院議員への襲撃事件（6日）

6日、ボレノビッチBH下院議員（民主進歩党（PDP）、RS野党）が、バニヤ・ルカの自宅前の駐車場にて、マスク姿の何者かに催涙スプレーをかけられ、襲撃される事件が発生。スタニブコビッチPDP党首は、彼に怪我がなかつたことに安堵すると共に、できる限り早く犯人の特定と起訴が行われることを求めるとした。

#### ●ドディック前RS大統領のロシア訪問（9日～10日）

9日～10日、ドディック前RS大統領は、モスクワを訪問し、ラブロフ・ロシア外務大臣及びショイグ・ロシア安全保障会議書記等と会談した。「ド」前大統領は、ロシアがBH情勢を正しく見守り、国際法とデイトン和平合意の枠組みを擁護しており、非常に良好な関係にあり、理解ある姿勢に感謝していると述べ、「ラ」大臣は、西側諸国が自らにとって好ましくないセルビア系指導者を、捏造された刑事裁判によって権力から排除しようとする試みを強く非難すると表明し、BH問題は、ロシアが議長国を務める10月31日の国連安保理事会合の議題となることを示唆した。加えて、「ショ」書記は、RS及びセルビアの政治情勢、そして今後実施が予定されているRSの住民投票について、我々は徹底的に議論し、今後の計画について話し、意見を交換したと語った。

#### ●BH憲法裁判所によるRS国民議会の結論

#### に対する一時差し止め（10日）

10日、BH憲法裁判所は、RS国民議会が採択したドディック前RS大統領の職務終了に関するCEC決定を認めないとする結論について一時差し止め（暫定措置）の決定を下し、RS国民議会の結論の第6、7及び8パラグラフ（注：ドディック前RS大統領の職務継続、前倒しRS大統領選挙への参加及び実施に向けたあらゆる活動のボイコット要求を内容とするもの）を一時的に無効とした。またBH憲法裁判所の最終決定が行われるまでの間、RSのあらゆる立法機関、行政機関および司法機関に対し、同結論の第6、7及び8パラグラフに基づくいかなる行動をとることについても禁止した。

#### ●スロベニア政府によるドディック前RS大統領への入国禁止措置（11日）

11日、スロベニア政府は、ミロラド・ドディック前RS大統領のスロベニアへの入国を禁止する措置を課すことを決定した。これに対し、新「RS政府」は対抗措置としてムサル・スロベニア大統領及びファヨン・スロベニア外相に対するエンティティへの入域禁止措置を科した。しかし、その数日後に「ド」前大統領は対抗措置を撤回する旨を表明した。

#### ●RS野党党首の自家用車が放火被害（11日）

11日、ブカノビッチ「正義と秩序のために（ZPR）」党首（RS国民議會議員）の自宅のあるトレビニエにおいて、自宅前に駐車した車両が3月以来2回目の放火の被害に遭った。

#### ●RS・セルビア議会フォーラムの開催（18日）

9月18日、「RS・セルビア議会フォーラム」が開催され、セルビア国民議会及びRS国民議会の双方から代表者が出席し、「両議会間の協力、平和、安定及び経済発展の維持」を

議題とする共同声明を発表した。ステバンディッチRS国民議会議長(RS与党・統一スルプスカ)は、ブルナビッチ・セルビア国民議会議長(セルビア進歩党、SNS)の出席を予定していることを事前に表明していたが、会談後に、技術的な理由により「ブ」議長は出席しなかつたと述べた。

#### ●RS警察予備隊創設に関するRS警察法改正のRS副大統領による署名(19日)

19日、プラニッチRS副大統領(2人いる副大統領のうちの1人。クロアチア民主同盟、HDZBiH)が、同15日付けで署名したRS警察法改正を公布する命令がRS官報に掲載された。一部メディアは、同副大統領の署名により、ドディック前RS大統領が事実上の権力移行を実施したのではないかと議論を提起。一方で、ツルナダクPDP副党首は、RS憲法第80条に基づけば、RS大統領の権限を副大統領のいずれかに移行できるのは、「一時的な障害」がある場合のみであり、ドディック前RS大統領は職務終了の決定を以てすでに「永久的な障害」を有していると見なすことができるため、「ブ」副大統領への権力移行の合法性についてはそもそも疑義があるとの見方を示した。

#### ●セルビア軍事パレード「団結の力」及び「セルビア・RS協力のための評議会」の開催(日)

ドディック前RS大統領は、軍事パレード「団結の力」及び「セルビア・RS協力のための評議会」に出席するため、ベオグラードを訪問した。なお、ツビヤノビッチBH大統領評議会セルビア系メンバー、ステバンディッチRS国民議会議長、ミニッヂ「RS首相」等も随行した。

#### ●ドディック前RS大統領とオルバーン・ハンガリー首相との会談(22日)

22日、ドディック前RS大統領は、ツビヤノビッチ・ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)大統領

評議会セルビア系メンバーとブダペストを訪問し、オルバーン・ハンガリー首相と会談した。「ド」前大統領は、ブダペストにて「オ」首相と農業、経済、政治等のあらゆる分野での協力に関する議論を継続している点を強調した。

#### ●エストニア政府によるドディック前RS大統領に対する入国禁止措置(25日)

9月25日、エストニア政府はドディック前RS大統領に対する制裁(入国禁止)を課した。ツアフクナ・エストニア外務大臣は、「エストニアは、主権を損ない、分離主義を助長する者を容認しない。イリーナ・ヴラフ氏(注:モルドバの元ガガウズ自治区長官)及びミロラド・ドディック前RS大統領に制裁(sanction)を課す。彼らの活動は、国際法の規範を脅かし、平和と安全を脅かすものである。」とX上に投稿した。同制裁に対し、「ド」前大統領は、エストニアが分離主義を口にして誰かを非難するのは、酔っ払いが酒の害悪を語るのと同じであり、自分はエストニアに行ったこともないし、そもそも行くつもりもなかったため、入国禁止の決定は全く意味が無いと反応した。

#### ●RS前倒し大統領選への参加政党の発表(29日)

29日、CECは、11月23日に予定されるRS前倒し大統領選に参加する政党の登録を締切り、RS与党からは独立社会民主主義者同盟(SNSD)、RS野党からはセルビア民主党( SDS)の参加を発表した。また、28日のSDSの党内会合において、ブラヌシャ氏がRS野党候補として擁立されることが決定した。

## 2. 外政

### (1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

#### ●コス欧洲委員(拡大担当)のBH訪問(22日～24日)

9月22日から24日まで、コス欧洲委員(拡大担当)はBHを訪問し、ベチロビッチBH大統領評議会ボシュニヤク・メンバー及びクリシュトBH閣僚評議会議長等と会談した。コス欧洲委員は、BHが欧洲統合を遂げる未来がやってくることを強く信じ、BH国家機関は尊重されなければならないとした上で、改革プロセスの継続を促し、その実施がEU加盟交渉開始の重要な前提条件であると強調した。

#### ●コムシッヂBH大統領評議会議長による国連総会における一般討論演説(25日)

25日、コムシッヂBH大統領評議会議長(クロアチア系メンバー)は国連総会において一般討論演説を行った。同演説では、BHの独自の歴史的経験に基づいて、ウクライナ、ガザに言及した上で、政治的手段としての戦争及びジェノサイドに対する警告を発した一方、デイトン和平合意の政治体制が民主主義原則を損なっている側面を指摘し、自国を防衛する権利及び民主主義は、大国の特権であり、より小さく貧しい国は、より大きく豊かな国が許す限りにおいてのみその両方を獲得できるにとどまるという結論が導かれるが、そうであってはならないと主張した。

#### ●ベチロビッチ大統領評議会ボシュニヤク・メンバーとNATO副事務総長との会談(26日)

26日、ベチロビッチ大統領評議会ボシュニヤク・メンバーは、BHを訪問したシェケリンスカNATO副事務総長と会談した。同会談では、BHの安全保障、政治状況及び欧洲大西洋路線において直面する課題について議論した。

「ベ」同評議会メンバーは、BHとNATOは切り離すことのできない関係にあるとした上で、BHの憲法秩序に対する攻撃が国内の平和と安定を深刻に脅かしていることを指摘し、BH国家機関及び国際社会の責任ある連帶した行動によって阻止されなければならず、BH憲法及び法律を遵守することを明確に主張する必要があると述べた。一方、「シェ」副事務総長は、NATOはいかなる分離主義的活動も許容せず、BHの主権と領土一体性を恒久的に支持し、一貫した政策を継続していく旨を述べた。

#### ●コナコビッチBH外務大臣とシニルリオールOSCE事務総長との会談(26日)

26日、コナコビッチBH外務大臣は、国連総会に参加するために訪問したニューヨークにおいて、シニルリオールOSCE事務総長と会談した。「コ」大臣は、欧洲の安全保障、安定性、平和に貢献するOSCEの基本原則及び義務を全面的に支持し、BHが欧洲統合に合致した外交政策を継続していく考えを示した。同会談では、西バルカンの地域発展及びRSの制度的課題についても話し合われ、「シ」事務総長からは、BHの主権、領土一体性及び単一性に対する明確な支持が表明され、民主主義の能力強化と欧洲統合に向けた支援を続け、国家機関の機能回復及び法の尊重があらゆる政治行動の基盤でなければならないという指摘がなされた。

#### ●EUFOR演習「クイック・レスポンス2025」の開催(28日)

28日、当地ブトミール基地においてEUFORの「クイック・レスポンス2025」演習の一環として、関係者向けの観覧演習が実施された。ソレカ当地EU代表は、同演習は、BHの主権及び領土一体性に対するEUのコミットメントを

示すものであると語った。

#### ●サラエボ安全保障会議の開催(28日)

28日、サラエボ市庁舎において、サラエボ安全保障会議が開催された。コラグランデNATO変革連合軍副最高司令官は、パネルディスカッション「新時代の航空戦争」に出席し、ドローン、人工知能、レーザー防衛システムのような新技術が戦争の様相を変えて、空の支配なしに他の領域での勝利を期待することはできないという本質は変わらない旨を強調し、NATOが今後10年間で航空戦力を増強する旨を発表した。

#### **(2)二国間関係**

##### ●チョービッチHDZBiH党首とプレンコビッチ・クロアチア首相との会談(11日)

11日、チョービッチHDZBiH党首は、プレンコビッチ・クロアチア首相とザグレブで会談し、BHの政治的安定、欧州統合及び改革の加速、3つの構成民族間の平等を実現するためのBH選挙法改正について議論し、クロアチア本国とBHのクロアチア系の間の結束を再確認した。

##### ●コナコビッチBH外務大臣とギンケル当地米国臨時代理大使との会談(18日)

18日、コナコビッチBH外務大臣は、着任したばかりのギンケル当地米国臨時代理大使と会談し、継続的な支援に感謝の意を表明した。会談の中で、「コ」大臣は、欧州・大西洋路線及び改革の実施に引き続き関与し続けていくこと、より強力な経済発展と投資の誘致の前提条件として、BHにおける安全保障と安定性が重要であることを強調した。一方、「ギ」臨代は、米国はあらゆる協力とパートナーシップを維持し、深化させ続けていくことを再確認した。

##### ●ツビヤノビッチBH大統領評議会セルビア系メンバーとギンケル当地米国臨時代理大使と

#### の会談(24日)

24日、ツビヤノビッチBH大統領評議会セルビア系メンバーは、ギンケル当地米国臨時代理大使と会談し、政治的緊張の緩和と安定強化に向けた議論が交わされた。同大使館の公式Xアカウントでは、「ギ」臨代が会談後に「平和、安全、繁栄を促すためにすべての立場のアクターと協力する」と述べたとしている。

### (3) 日・BH関係

#### ●令和7年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「キセリヤク市診療所救急車整備計画」、「コニツツ市診療所X線撮影装置整備計画」贈与契約署名式(29日)

9月29日、相木大使とキセリヤク市診療所ニノ・ババン所長及びコニツツ市診療所ジェマル・ハイドウク所長との間で、草の根・人間の安全保障無償資金協力事業「キセリヤク市診療所救急車整備計画」及び「コニツツ市診療所X線撮影装置整備計画」に関する贈与契約への署名を行った。

署名式にて、相木大使は、キセリヤク市診療所に対しては、救急車の老朽化が進む中、新たな救急車の供与、コニツツ市診療所に対しては、2018年の救急車支援に続いて、今般、新たなX線撮影装置の供与が決定し、両診療所が提供する医療サービスの質の向上に貢献できることを嬉しく思う旨述べた。



(写真:) 署名式の様子

#### ●相木大使のアブディッチ・サラエボ市長表敬(30日)

9月30日、相木大使は、アブディッチ・サラエボ市長を表敬訪問した。両者は、日本とサラエボ市が、様々なプロジェクトを通じて良好な関係を築いており、経済、文化、環境、観光等の分野で更なる協力発展の可能性があることを確認した。また、広島市とサラエボ市の交流や、サラエボ市第三高校と日本の開智日本橋学園の交流に言及し、平和教育を含め、市民が相互に学び合うことの重要性を踏まえ、今後の交流発展に尽力していくことで一致した。



(写真:表敬訪問の様子)

### 3. 経済

#### (1) 経済指標(出典:BH統計局)

##### ●工業生産指数

2025年8月の工業生産指数は、季節調整後数値で前月比3.3%マイナス。前年同月比4.6%マイナス。

##### ●雇用／失業率

2025年7月の失業者登録数は32万940人(うち女性19万1407人)で、前月比では1.3%プラス、前年同月比で2.4%マイナス。

##### ●平均給与

2025年7月の平均給与(手取り)は1,601KMで、前月比で名目賃金は2.0%プラス、実質賃金は1.8%プラス。前年同月比で名目賃金は14.8%プラス、実質賃金は9.5%プラス。

##### ●消費者物価指数

2025年4月の消費者物価指数は前月比0.2%マイナス。前年同月比で平均4.1%プラス。食料品・ノンアルコール飲料の価格は前月比0.4%のマイナス。

##### ●貿易収支

2025年8月のBHからの輸出総額は111.25億KM(前年同期比5.7%増)、BHへの輸入総額は196.61億KM(前年同期比3.8%増)。貿易収支は85.36億KMの赤字。

#### (2) 経済政策・公共事業

##### ●BH運送業者による抗議活動(2日)

9月2日、BHの運送業者は、EUでの不平等な取り扱いに抗議し、主要道路や税関ターミナルを封鎖する抗議活動を展開した。燃料税の削減や柔軟な労働規則を求め、EU内の滞在期間の計算方法の改善を訴えている。同問題は政治的な側面も持ち、SNSDと民主行動党(SDA、ボシュニヤク国政野党)の間で利害が一致し、抗議活動に関しフォルト通信・

運輸大臣(「我々の党(NS)」党首、国政与党)を攻撃。「フォ」大臣は、要求の多くに対応しているとしながらも、解決には地域的な協力が必要と訴えている。

#### (3) 民間セクター

##### ●サラエボ-パリ直行便の開設(16日)

サラエボ国際空港は、来年4月17日からエールフランス-KLM グループの格安航空会社であるトランサヴィア・フランスによって運航される、サラエボ-パリ直行便の開設を発表した。週に2便、月曜日と金曜日に計画されている。